京都府医師会
在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news
Vol.45
2023年1月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東栂尾町6番地　京都府医師会館 3階 tel.075-354-6079　fax.075-354-6097

※当センターホームページにてバックナンバーがお読みいただけます。

Menu
◆令和4年度 研修会開催報告(P1～ P3)
◆令和4年度 在宅医療・地域包括ケアサポートセンター研修会 予定一覧(P4)　◆令和4年度 オンデマンド配信 一覧(P4)

第2回 京都在宅医療塾　探究編(Web 講習会) 開催報告

オンデマンド配信中！ 配信期間 ：3月31日(金) まで　右記の QR 画像から お申込み受付中

京都府リハビリテーション教育センターに企画を依頼し、10月16日 (日) に京都府立医科大学 リハビリテーション医学教室の先生方に以下の内容でご講演をいただき、医師89名、多職種38名と多くの方にご参加いただきました。

①在宅リハビリテーション治療・サービス総論　ーいつ・どのように・どうやって？ー

リハビリテーション治療・サービスを開始するまで	京都府立医科大学　リハビリテーション医学教室 教授 三上　靖夫 氏
リハビリテーション治療・サービスを開始した後 (フォローアップのポイント)	同教室　准教授 (集学的身体活動賦活法開発講座) 沢田　光思郎 氏

②在宅リハビリテーション治療・サービスにおける疾患・障害別アプローチ方法　ー診療で普段使いできる6つの見方ー

「サルコペニア・フレイル」「生活習慣病」「呼吸器疾患」	同教室　講師 河﨑　敬 氏
「がん」「脳卒中」「摂食嚥下障害」	同教室　助教 垣田　真里 氏

講師からのコメント

先生方が診ておられる患者さんが介護認定を受けることで、どんなサービスを利用できるか、サービス開始までに何をすべきかについて、お話しさせていただきました。高齢者の多くは、多くの疾病や障害を抱えています。ケアプランを作成するとき、訪問・通所リハビリテーションを利用するときに、患者さんのことを最もよく知っている先生方にしか出せない指示やコメントをケアマネジャーやセラピストは待ち望んでいます。よろしくお願いいたします。三上　靖夫 氏

多くの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。ちょっとした用語や評価法、リスク管理を知って療法士さんと共通言語を語り合うことで、患者さんのADL・QOL はさらに改善します。ぜひこれまで以上にリハビリテーションの領域にコミットメントいただけますと幸いです。教室では、京都府リハビリテーション教育センターの企画・運営を行い、かかりつけ医の先生を対象としたセミナーや研修会を年間通じて開催しています。ぜひお問い合わせ・ご参加ください。　沢田　光思郎 氏

リハビリテーション科医を志して以来、在宅医療に関して初めて故郷の京都でお話しさせていただきました。多くの諸先輩の先生方に聞いていただけて光栄でした。大変な緊張の中でしたが、何とかお伝えしたい内容は話せたと思っております。ありがとうございました。在宅医療は、地域住民(京都府民) の命と健康を支える要です。今後もご指導いただきながら、患者さんのために連携を強化できればと思っておりますので、何卒宜しくお願い致します。　垣田　真里 氏

在宅でリハビリテーション治療やサービスを受けられている患者さんの中で、サルコペニア・フレイル、生活習慣病や呼吸器疾患を有する際のリハビリテーション治療上の注意点についてお話しさせていただきました。先生方が日常診られることの多い疾患ですが、いくつかの注意点はあるにせよ、運動療法を中心としたリハビリテーション治療は患者さんの ADL や QOL の維持、介護度の軽減に重要です。お話しした内容が、日々の診療においてリハビリテーション治療の指示を出す際の一助となりますと幸いです。　河﨑　敬 氏

令和4年度 在宅医療・地域包括ケアサポートセンター研修会 予定一覧

京都　在宅医療　検索

※今後の研修会開催予定一覧です。演題名等詳細は順次、京都医報、当センターホームページでご案内いたします。

■京都在宅医療塾　実践編　対象：医師　場所：京都府医師会館5階

日時	テーマ	講師
1月26日 (木) 18:00～20:00	褥瘡診療の腕を上げよう！！ 『褥瘡のいろは』 『褥瘡のケア方法・ 創傷被覆剤の使い分け』	まつだ在宅クリニック　医師　村上　啓司 氏
2月22日 (水) 14:30～16:30		まつだ在宅クリニック 皮膚・排泄ケア認定看護師　渡邊　朋子 氏

■かかりつけ医認知症対応力向上研修　集合研修(Web 開催)　対象：医師・多職種

Part	日時	テーマ	講師
前　半	1月21日 (土) 14:00～16:00	「基本知識」 「診療における実践」	北山病院　院長　澤田　親男 氏 (認知症サポート医幹事)
後　半	1月28日 (土) 14:00～15:30	Ⅰ「かかりつけ医の役割」 Ⅱ「地域・生活における実践」	Ⅰ はやし神経内科　院長　林　理之 氏 (認知症サポート医幹事) Ⅱ 京都府立医科大学大学院　医学研究科 精神機能病態学　精神医学教室　教授　成本　迅 氏 (認知症サポート医幹事)

■認知症サポート医フォローアップ研修(Web 開催)　対象：医師・多職種

日時	テーマ	講師
3月11日 (土) 15:30～17:00 (予定)	調整中	神戸大学大学院　保健学研究科 リハビリテーション科学領域　脳機能・精神障害学分野 教授　同認知症予防推進センター長　古和　久朋 氏

令和4年度 オンデマンド配信 一覧

オンデマンド配信のお申込みは本センターホームページ(右記 QR 画像) にて受付中です。
また詳細は順次、京都医報、当センターホームページをご覧ください。

■総合診療力向上講座　対象：医師

日時	テーマ	講師
調整中	外来・在宅でできる緩和ケア	早期緩和ケア大津秀一クリニック　緩和医療専門　大津　秀一 氏

■京都在宅医療塾　探究編　対象：医師　多職種

日時	テーマ	講師
～3月31日 (金) まで配信	①在宅リハビリテーション治療・サービス総論 ーいつ・どのように・どうやって？ー ②在宅リハビリテーション治療・サービスにおける疾患・障害別アプローチ方法 ー診療で普段使いできる6つの見方ー	京都府立医科大学　リハビリテーション医学教室 教授　三上　靖夫 氏 准教授 (集学的身体活動賦活法開発講座) 沢田　光思郎 氏 講師　河﨑　敬 氏 助教　垣田　真里 氏
調整中	終末期の肺炎の診療と 緩和ケアについて	東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター長 地域連携型認知症疾患医療センター長 日本エンドオブライフケア学会　副理事長　平原　佐斗司 氏

在宅医療に関係する質問があればお問い合せください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合せ、ご意見及びご感想は
京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東栂尾町6番地　京都府医師会館3階
tel.075-354-6079　fax.075-354-6097

■ 第1回 京都在宅医療塾 実践編 開催報告（参集型開催）

オンデマンド配信予定

2月15日よりオンデマンド配信（※申込制）を予定しています。

洛和会音羽病院 院長補佐 総合内科
部長 洛和会音羽病院教育センター
センター長　**谷口　洋貴** 氏

まつだ在宅クリニック 院長
松田　かがみ 氏

11月9日（水）洛和会音羽病院 院長補佐 総合内科 部長 洛和会音羽病院教育センター センター長 谷口　洋貴 氏と、まつだ在宅クリニック 院長 松田　かがみ 氏を講師に迎え「在宅でエコーを使ってみよう！ ~POCUS の概念を利用して~」と題した研修会を開催し、医師14名にご参加いただきました。

臨床医がベッドサイドでポイントを絞って行う超音波診療のことを point of care ultrasound（POCUS）と呼び、さまざまな医療現場で POCUS が急速に普及しつつあります。在宅医療の現場でも迅速な判断が求められる場面や、通常の診療で活かせる技術習得を目指して、本研修会では「在宅でエコーを使う上での基礎的事項」と題した基礎講義の後、ポケットエコーを使用して「心エコー」と「腹部エコー」の実技を行いました。

● 受講者の声～受講後アンケートより抜粋～ ●

■やはり実技に触れる、実際に見せてもらえることは良いと思えた。エコーを持っているが使えない→使おうと思った。

■普段の ER 業務ではすぐに画像検査を行ってしまっている場面もあるが、もっと積極的にエコーを使っていこうと思えた。エコーの有用性を再確認することができた。

■実際にエコーを触ることができ、プローブの当てる場所なども知ることができた。

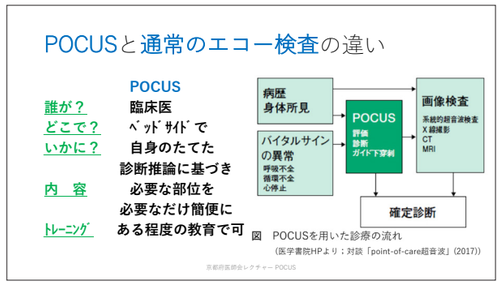


図　POCUSを用いた診療の流れ
（医学書院HPより；対談「point-of-care超音波」(2017)）

心エコー

腹部エコー

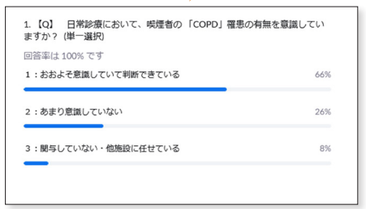
■ 第2回 総合診療力向上講座（Web 講習会）開催報告

8月20日（土）市立福知山市民病院 研究研修センター長 兼 総合内科医長 川島　篤志 氏を講師に迎え「外来での発熱診療 呼吸器診療との向き合い方～ポストコロナを見据えて～」と題した研修会を開催し、医師160名にご参加いただきました。

Zoomウェビナーを使用した Web 講習会でしたが、投票機能を使用し簡単なアンケートを実施していただき、一方通行ではなく、参加者との相互のやりとりを行いながら進めていただきました。

市立福知山市民病院
研究研修センター長 兼 総合内科医長
川島　篤志 氏

リアルタイムで集計結果を表示しました



● 受講者の声 ●
～受講後アンケートより抜粋～

■コロナ禍で、専門外でも発熱患者を診る機会が増え、このような内容の講義を聞くことは大変参考になる。

■ COPD-Q による早期介入。5種類のワクチンの勧めなど、手薄になってきたことへの取組が必要と思った。

■ 第1回 京都在宅医療塾 探究編（Web 講習会）開催報告

京都府医師会 理事・医療法人同仁会（社団）介護事業部 事業部長
統括医師・医療法人同仁会（社団）京都九条病院 精神科・心療内科・
京都市唐橋地域包括支援センター センター長
西村　幸秀 氏

9月11日（日）京都府医師会 理事・医療法人同仁会（社団）介護事業部 事業部長統括医師・医療法人同仁会（社団）京都九条病院 精神科・心療内科・京都市唐橋地域包括支援センター センター長 西村　幸秀 氏を講師に迎え「在宅療養する本人・家族に寄り添う医療とは～見立てと治療、意思決定支援～」と題した研修会を開催し、医師82名、多職種68名にご参加いただきました。

認知症の人のケアとコミュニケーション

パーソンセンタードケア
- 認知症をもつ人の“その人らしさ”を尊重し、その人の視点や立場に立って理解し、ケアを行おうとする基本的な認知症ケアの視点
- 認知症をもつ人の行動や状態を、疾患、性格傾向、生活背景、健康状態、心理、社会的背景など多角的な面から捉えて理解しようとする

バリデーション療法
- 認知症者の言動を否定せずに感情を共有し、行動の背景や理由を理解しながら関わる手法

ユマニチュード
- 「見る」「触れる」「話す」「立つ」の4つの柱を使って働きかけるとで、お互いを尊重し合い認知症の人とポジティブな関係を築こうとするケア技法

● 受講者の声～受講後アンケートより抜粋～ ●

■認知症の方の療養に際し、本人の意思決定より家族や介護者の気持ちが優先されてしまうことが多くある。家族の心理的な変化や、支援者のかかわり方を理解することで、地域包括ケアの「本人の意思決定」が尊重される大切さを学んだ。（看護師）

■認知症高齢者支援は普段実践していることであり、ご本人の意思決定にどう関わっていけばよいのか毎日悩んでいる。特にアサーションについて、先生方や他職種との連携や日々のコミュニケーションに生かすことができると思った。（ケアマネジャー）

■利用者のほぼ全員が認知症である、特養の施設の看取りや意思決定支援を今後充実させていくためには、家族とのコミュニケーションなので、アサーションなどの知識を実践に活かしていきたいと思った。（看護師）

■ 第3回 京都在宅医療塾 探究編（Webグループワーク）開催報告

オンデマンド配信予定

2月1日よりオンデマンド配信（※申込制）を予定しています。

東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター長・地域連携型認知症疾患医療センター長・日本在宅医療連合学会副代表理事・日本エンドオブライフケア学会 副理事長
平原　佐斗司 氏

11月20日（日）東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター長・地域連携型認知症疾患医療センター長・日本在宅医療連合学会副代表理事・日本エンドオブライフケア学会 副理事長 平原　佐斗司氏を講師に迎え「終末期の肺炎の診療と緩和ケアについて」と題した研修会を開催し、医師29名、看護師13名にご参加いただきました。

基礎講義：「終末期の肺炎について」
1　治らない肺炎を起こす疾患や状態
2　在宅や施設でどのように肺炎の診断をするか？
3　終末期の肺炎の予後の予測　～認知症の場合～
4　終末期の肺炎の苦痛と苦痛を訴えられない人の苦痛の評価　～認知症を例に～

グループワーク：「末期アルツハイマー型認知症」　Zoom のブレイクアウトルームを使用しました

ミニレクチャー：「終末期の肺炎の緩和ケアについて～末期認知症を例に考える～」
1　終末期肺炎の治療について
　・末期認知症の肺炎への抗菌薬治療の中止や差し控えの判断基準
　・重度から末期認知症の肺炎の輸液についての考え方
2　終末期肺炎の緩和ケアについて
　・末期認知症の肺炎の呼吸困難へのオピオイドの投与について

● 受講者の声～受講後アンケートより抜粋～ ●

【基礎講義について】

■勤務している病院では、療養病棟の担当なので、講義資料の例とそっくりなケースがある。本日の研修内容を明日からさっそく応用したいと思う。

■専門的でエビデンスの大きい実践的で最新の知識を教えてもらうことができた。（看護師）

■現在の治療やガイドライン、根拠が理解できた。（看護師）

【グループワークについて】

■経験のある医師、看護師の考えを聞けて、Discussion があって良かった。（研修医）

■他の先生の生の声が聞けたから、明日の診療の自信とモチベーションを高められた。（勤務医）

■ ACP も含め、医師の考え方やコーディネーターの意見が聞け、多職種でのグループワークはとてもよかった。（看護師）

【全体を通しての感想】

■これまで点滴量や抗生剤の差し控え・中止の指針があいまいで、患者さんをとりまく皆が「独りよがりでないか・自己中心ではないか・本当に本人は楽なんだろうか」などと恐れつつ決めていた。データ・指針という目安を応用して考えられるので、上記の不安や葛藤をやわらげることに貢献すると思う。系統的レビューに基づく指針作成はありがたい。